

## ほとんど知らない オーケストラの話

(第8回)

「新世界」を知っていますか？

東京フィルハーモニー交響楽団  
専務理事・楽団長  
石丸 恭一

オーケストラは多数の違った楽器が集まって演奏するところに特徴とその魅力があるのですが、全編に渡ってすべての楽器が演奏を続けている訳ではありません。弦楽器群の様に殆ど演奏し続けている楽器もあれば、管楽器の様に吹いては休み、休んでは吹いているものや、ハープやピアノの様に時々加わったりする楽器もあります。打楽器にいたっては有ったり無かったり、その曲の編成によって違います。

ドヴォルザーク作曲の「新世界」という有名な曲があります。四楽章からなる交響曲ですが、その中にたった一回（一音）だけシンバルが演奏されます。しかも曲の終盤にかなり小さな音なのです。舞台上では演奏中に入りはできません、全楽員が奮闘努力し汗をかいて演奏を続ける中、シンバルを持った楽員はじっと座って待っています。一度見失うとそれっきりで何も無くなるのですから夕食のおかずの事など考えている訳にはいきません。その緊張たるや「こんな仕事は一生やりたくない」と思うってしまう位なのです。緊張は非情にも睡眠を招きます。気が付いた時にはその演奏会はただ座っていただけで終わったのです。しかも、奏者の悲壮感とは別に指揮者以外には誰

も気づく人は居なかったのです（多分）。

ではその練習の日はどうなっているのでしょうか。一日の練習時間のうちにシンバル奏者の必要な時間は長くて数分です。演奏会ではありませんからその時間だけそこに居れば良いのです。後は自由時間です（私はシンバル奏者になりたい）。

オーケストラの演奏には舞台以外にオペラなどオーケストラピットでの演奏があります。ワーグナーなど四時間を超える曲では打楽器は2～30分演奏が無いことが度々あります。オーケストラピットは照明もされてないのでお客席からは良く見えませんのでその間はピットから出て楽屋で自由待機をしているのです。オペラの本場ヨーロッパのオペラハウスにはオーケストラピットの裏になんと、バーがあります。公演は続いていても演奏の無い楽員は休憩することが慣習になっているのですね。

さて、オーケストラの楽員は雇用です。労働時間にそんなに差が有って給料にも相応の差が有るのでしょうか。答えは、「差は無い」のです。昔から良く出る話なのですが慣例なのです。今日本で云われている同一労働同一賃金と言う事はオーケストラではどの様に解釈するのでしょうか。